

---

# さくら

枝豆

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

さくら

### 【著者名】

N2284B

### 【作者名】

枝豆

### 【あらすじ】

毎朝、俺の嫌いな桜の木の下で俺を待つて居る彼女。最初は苦手だったが……。

桜。

毎年、春に咲き、散つていくたくさんの花びら。

俺は、そんな桜が大嫌いだ。

俺の家の前にある大きな桜の多すぎる花びらが毎年毎年、そこを通るたび俺に襲い掛かってくるからだ。

それと……

「あ、悠斗！……」

彼女は、同じ学校、同じ学年の隣のクラスの女。

なぜか、知らないが毎朝毎朝、俺をここで待つている。いつの頃からかは、忘れたけど。

俺の記憶の中では、中学から同じ学校。

特に、何も接点はない。待ち合わせをしていた覚えもない。

俺は、彼女を見つからないように学校へと向かつ。

でも、彼女は俺を見つけ毎朝、話かけてくる。

俺は彼女に言ひ言葉が見つからず、俺は下を向いて学校へと向かつて歩く。

彼女とある程度の距離を置いて。

傍から見れば、俺が彼女を無視しているように見えていいんだろう。

無視されても、されても、彼女は毎日桜の木にいる。

毎日、俺に話しかけてくる。

毎週、毎月、毎年。

俺は、不思議に感じながらも、彼女のことを探し始めた。

何で毎日俺を待つていてくれるんだ？

俺は、ひいき目に見てもかつこいいとは言えない。

それに比べて、彼女は学校で一、二を争う美人だ。

学校では、滅多に話さない。

というか、男子の目が怖くて俺が、彼女を避けている。

俺は、優しくもない。

毎朝待つていてくれている学年一美人の彼女をシカトするぐらい。よく今まで俺はこの学校の男子に殺されずにすんだものだと、最近実感している。

こんな俺を彼女が好きなわけがない。

どんなにプラス思考に考えても、この結論にしか行き着かない。

俺が、頭脳明晰でかつこよくて優しくてスポーツ万能で、彼女の隣にいてもおかしくないような、素晴らしい人だった。俺も、学校中の女生徒から黄色い声を浴びれる様なモテモテ君だった。

彼女が、桜の木の下で待つていてくれる事を素直に喜べただろうか。好きになれてただろうか。

いや、間違いなくなっているだろう。

そして、調子に乗った俺は彼女に告白をするだらう。そして……。

どうなるかは分からない。想像もつかない。

彼女が、こんな俺を好きになってくれても嬉しくはない。

それは、今の俺ではないから。

彼女が、毎朝桜の木の下で待つていてくれる俺では。

彼女は、明日も俺を待つていてくれるだらうか。

あの桜の木の下で。

嫌いだつた桜が少しづつ好きになつていつた。

朝になれば、彼女がそこに立つていてくれるから。

明日は、無視しないでちやんと田を見て話をしよう。

今まで、顔すらまともに見たことがないが美しい彼女の心からの笑顔が見たいから。

(後書き)

読んでいただきありがとうございました。  
小説と詩の中間を取つたような物語になつてしましました。中途半  
端なこの作品ですが、感想・評価お待ちしています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2284b/>

---

さくら

2010年11月2日02時38分発行